



グレーヴァ香子 教授

専門：非協力ゲーム理論

(インタビュアー：池田・馬場)

『ゲーム理論の最先端、繰り返しゲームと進化ゲーム！！』

Q. グレーヴァ先生の専門とされている研究内容はなんですか？

私が今取り組んでいるのは繰り返しゲームと進化ゲームです。ただ、これを皆さんに説明するのは非常に難しいですね。なぜなら、非常に最先端の分野だからです。だから、私のゼミでもそれを直接反映しているかということそうではないです。ゼミで扱っている分野はあくまでも基本的なミクロ経済学と非協力ゲーム理論です。これらの基本の部分を実際に理解させようということを目指してゼミは行っています。

『最終的に行き着いた理念とは、「難しいものを自主的に学習させる」！？』

Q. グレーヴァ先生の教育理念を教えてください

教育理念はだいぶ変化しました。スタンフォードから帰ってきたすぐは、悪いけど慶應生の能力が低く思えて、正直に言うと「なんでこんなことも出来ないの？」ってかなりイライラしながらやっていました。ただし、その時はアメリカ的な教育をしていて、わりと易しい内容を扱うようにはしていました。しかし、途中で変化しました。第一号の院生が出た時に彼が結局、博士課程を断念して修士課程で辞めてしまったんです。理由は、数学的基礎が足りないということを実感が自覚したからです。そのとき私も大変残念に思いましたし、せっかく大学院まで行ったのに学部の基礎が足りないということで断念してしまったというのは教育的に大変失敗だったと感じました。それから学部生だからといって簡単なことをやるのはやめよう、ある程度、本当のことをその代わりに私がもっと噛み砕いて教えてやろうというふうに教育方針が変化しました。それまでは、簡単なことを完全に学生が自主的にやれって思っていた。だけど、そ

れをやめて難しいことを私が指導しながらやるという方向に変えました。さらにノルウェーに行った後に慶應の学生はとても優秀だということに気が付いて、彼らは大変優秀なんだから伸ばしてあげないともったいないということに気がついてまた変化しました。優秀だということを前提にすると、もうちょっと自主的にやってもらうように出来ましたね。だから二回ぐらい推移がありましたね。最初完全に自主的に簡単なことをやらせて、次に私が完全に管理して難しいことをやらせて、さらに変化して難しいことを自主的にやらせるとういう方向になりました。最近はこのような形で指導しています。結果、大学院にいても挫折しないような人が出てきました。

(注) 先生は慶應大学経済学部、同修士課程を経て、その後はスタンフォード大学で博士課程を修了後、教員となられてからはノルウェーでも教鞭を取られていました。

『ミクロ経済学と運命的な出会いを果たした学生時代！』

Q. グレーヴァ先生の学生時代のお話を聞かせてください

実は学部生時代の過ごし方の理由は高校時代にあって、中高はひたすらバレーボールだけに専念していたんです。それである意味満足したというか、大学にいったら勉強しようかなってなりました。経済学に興味があったので、経済学部しか受けず、経済学部に入りました。なので、中高時代思う存分スポーツをやった反動で大学時代は思う存分いろんな勉強をしようと思ってやりました。だから、サークルはバレーボールもやっていたけど、理論経済学研究会っていう、経済学を幅広く勉強するサークルに入っていましたね。大学に入っているところと勉強したところ、二年のときにミクロ経済学を習って「メチャメチャ面白い」ということに気づいて、それ以来ずっとミクロをやっています。どういうところに魅力を感じたかといえば、やっぱり理論が素晴らしく厳密につくられているところですね。それまでイメージとして理数系に比べると社会科学って曖昧な議論、哲学的な議論ではないかという危惧を抱いていました。でも経済学を見るとこれは完全に理数系と対比できるぐらい厳密で科学であり、そして科学であるからにはちゃんとデータをつかって検証も出来るし、何かしらの定理の証明も出来る。こういった科学であるというところに感動しましたね。

考えてみると、大学時代に何をやるかは中高時代の原因の結果になっているのかもしれませんが。私とは逆に中高時代かなりまじめに勉強していた人は大学

に入った段階で力尽きてしまったという人も多いのではないのでしょうか？私は中高時代にあまりに勉強しなかったので、空だった頭の中にいろいろと入れるのが楽しかったですね。

『求めるものはただ一つ。「理論が好き」というその思い。』

Q グレーヴァゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

理論のゼミはどこもそうですけど、やっぱり論理的思考が好きな人が来るべきでしょう。AならばBということをや密にやるのが楽しいという人が来るべきであって、友達がいるから来るとか就職に有利だから来るとかそういう人は多分楽しくないでしょうね。私のゼミでは必ず厳しく当ててその場で（輪読の発表を）やらせますし、しかも年に一回当たるのではなく月に一回以上はあたるので、やはり理論が好きな人が来るべきでしょうね。

でも、いきなり完成してなくてもいい。ゼミの中で伸びる人もいるので、とりあえず「好き」というのが一番。「好きこそものの上手なれ」で、好きならばミクロがCでもいい。さすがにDは困るけどね…。今までもミクロでCとか、日吉で（留年してしまって）三年とか言う人も私のゼミにはいたし、完成されている必要は本当はない。やる気があって、本当に理論がやりたければ私のゼミに来れば伸びると思う。

『二年間、徹底的に指導します！』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

私のゼミの特徴は理論をや密にやること。非協力ゲーム理論をやっているのは三田ではうちだけ。だから、非協力ゲーム理論を完全にやりたい人はうちにくるしかありません。あとは本当に二年間個別に丁寧に指導します。スポーツと同じで、出来ないうちはまあ辛いよね。出来るようになるまでは辛いこともあるのは確かだろうけど、「完全にわかった」という経験ができるようになるとうれしいはず。二年間、ばっちり指導するのでちゃんとゲーム理論、ミクロ経済学の理論で卒論を書けるようになる。だから、そこまでやりたい人は是非来て下さい。